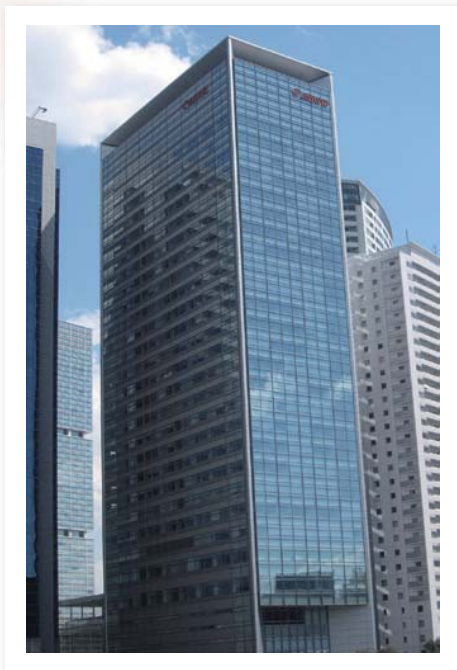


「定期イベント」から「日々」の管理に IT資産管理の精度向上と ソフトウェアライセンスの 最適化を実現した 「PerfectWatch」

デジタルカメラやプリンタ製品から IT ソリューションまで幅広い事業を展開するキヤノンマーケティングジャパン。古くから業務での最新の IT デバイスの活用を推進してきたが、さらなる最先端デバイス、ソフトウェアの活用には管理負荷が課題になっていった。同社では Win テクノロジの「PerfectWatch」を活用して、わずか数名でグループ全社の運用管理体制で実現している。



| User Profile

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

設立

1968年2月

従業員

連結：18,482名 単独：5,325名
※2015年4月1日現在。連結子会社数は、ドメイン名管理会社などを除く。

所在地

東京都港区港南2-16-6

事業

キヤノン製品ならびに関連ソリューションの国内マーケティング

| 導入パートナー

キヤノン ITソリューションズ株式会社

東京都品川区東品川2-4-11 野村不動産天王洲ビル
Tel : 03-6701-3300 Fax 03-6701-3301
<http://www.canon-its.co.jp/>

| 導入ソリューション

 **PerfectWatch**

正しいIT資産管理体制を構築するためには、管理プロセスの整備が不可欠です。PerfectWatchはISO199770-1に準拠した管理プロセスを支援するIT資産管理システムです。

PerfectWatchが提供する台帳機能では、ハードウェア・ソフトウェア・ライセンス等のIT資産情報のあるべき姿を一元管理し、様々なライセンス体系に応じた、ライセンス過不足の正確な把握を可能にします。また、インベントリツールと連携して利用することで、タイムリーに実態を反映し、あるべき姿との乖離を検出します。ライセンス不足、未許可ソフトウェアの利用等、検出した異常は直ちにエンドユーザーに通知し、スムーズな是正を可能にします。

IT資産のライフサイクル管理プロセスを支援するPerfectWatchを活用することで、エンドユーザーを含めた組織全体のIT資産管理プロセスの円滑な運用が可能になります。

スマートフォン、タブレット…… 最先端デバイスの活用に向けた課題

キヤノンマーケティングジャパン株式会社（以下、キヤノンマーケティングジャパン）は、日本のものづくりを代表するキヤノンの製品および関連ソリューションのマーケティング業務を一手に担う企業だ。同社では市場環境の変化にいち早く対応するべくビジネスのスピーディーな遂行を目指して、最新の IT デバイスについて、積極的な導入・活用に取り組んできた。古くから 1 人 1 台の PC 環境だけでなく、外回りの多い従業員への約 1 万台のスマートフォンの一斉配布やタブレットの活用など、最先端のデバイスも活用したワークスタイルの改革にチャレンジしてきた。

しかしこうしてデバイス活用が進む中で、従業員が日々利用するデバイスは PC だけで約 2 万台の規模におよぶようになった。さらにその種類も増加し、その管理にまつわるさまざまな課題が持ち上がってきたという。キヤノンマーケティングジャパン IT 本部 IT 管理部 IT 管理課 主管スタッフ 八木下洋氏は、次のように話す。

「全国の拠点に散らばる従業員がそれぞれ使う PC を確実に、かつ効率的に管理するため、2000 年に PC 管理システムを内製しました。これによって大量の PC を少人数の管理者で一括して管理し、グループ全体でガバナンスを効かせることが可能になりましたが、その後に携帯電話やスマートフォン、タブレットなど、さまざまなデバイスが導入されるに従って、このシステムでは管理しきれなくなってしまったのです」

自社開発した管理システムは、PC の管理を前提に作られていたため、スマートフォン特有の ID 項目等、最新のデバイスを管理するのに十分な機能を持っていなかった。そのため、最先端デバイスの導入が進むにつれ、個別のしくみでの管理が必要になっており、システムの集約へのニーズが高まっていった。

さらにはコンプライアンス対策を強化し経営リスクを低減するには、ハードウェアだけでなく、ソフトウェア、ライセンスへのガバナンス強化も大きな課題として持ち上がっていた。



キヤノンマーケティングジャパン株式会社
IT 本部 IT 管理部 IT 管理課
主管スタッフ
八木下洋氏

● PerfectWatch のポータル画面



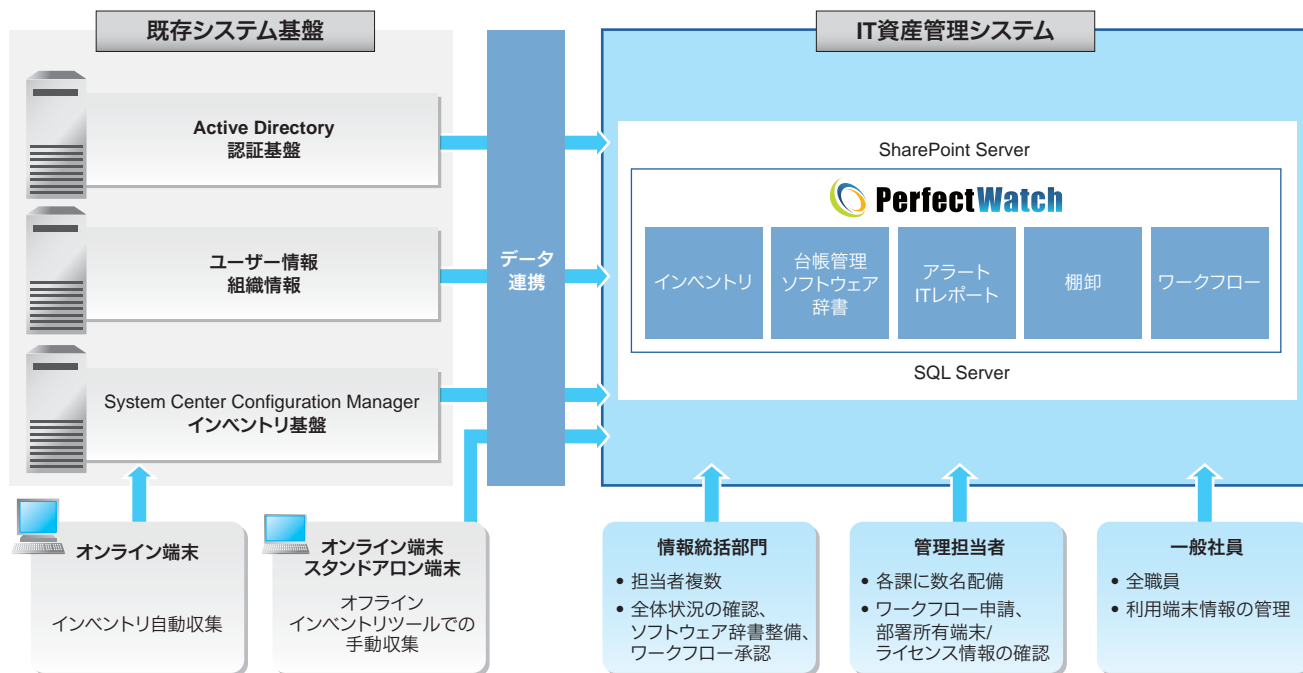
● PerfectWatch のマイページ画面



「ソフトウェアライセンスの適正な運用管理を行うため、従来もソフトウェアの台帳管理をしていました。棚卸しのタイミングで一斉に台帳を最新化しておりましたが、ソフトウェアライセンス利用状況をグループ全社で把握するには、クライアント管理システムとのデータと比較して差分を確認するなど、膨大な作業が必要でした。かといって、これを自社開発した管理システムの仕組みで自動化するには、システム更改に膨大な手間や時間がかかることが予想されました」（八木下氏）

このように同社では、最先端のハードウェアの導入、そしてソフトウェア管理への取り組みにおいて、管理作業の負荷が徐々に課題となっていく。今後も最先端デバイスの活用に積極的に取り組んでいくためには、さまざまなハードウェア種別、そしてソフトウェアをまとめて管理し、管理作業全体を効率化する IT 資産管理の仕組みの導入が不可欠だった。

● PerfectWatch システムイメージ ①



ハードとソフトの一元管理が可能な「PerfectWatch」を選択

八木下氏は課題を解決できる手段を探して、さまざまな IT 資産管理ソリューションを比較検討したものの、同社のニーズに合致するものは見つからなかったという。

「大量のデバイスを少人数で効率的に集中管理するという、私たちの IT 資産管理ポリシーを崩したくありませんでした。また、ソフトウェアやそのライセンスを確実に効率的に管理するためには、信頼できるソフトウェア辞書を採用していることも条件でした。当時はこれらの要件を満たして、ソフトウェアとハードウェアをまとめて管理できる製品となると、複数製品を組み合わせざるを得ませんでした」

そんな中、八木下氏は Win テクノロジ株式会社（以下、Win テクノロジ）が提供する IT 資産管理ソリューション「PerfectWatch」のことを知ったという。ハードウェアとソフトウェアの情報を一緒にデータベースの中へ入れて一括管理できること、カスタマイズできることから、同社の要件に合致するのではないかと考えた八木下氏は話す。

「ハードウェアとソフトウェアを1つの製品で一括管理することは半ばあきらめていた時に、PerfectWatch を知りました。これならハードとソフトの両方を含め、さまざまな IT 資産を集中管理できると考えました。当社では標準化されたソフトウェア構成で展開しています。そのため標準ソフトウェアについてはシステム部門での集中管理が可能でしたが、現場業務に必要なソフトウェアについてはシステム部門だけでライセンスの確認を完結できないため、エンドユーザーとの確認が必要でした。PerfectWatch はこの点においても、ポータルを通じてエンドユーザーが自ら管理作業を行える機能が充実していました」

また、それまで利用していたインベントリ収集ソフトウェアが稼働するハードウェアもちょうど更新時期を迎えており、同社では System Center Configuration Manager (SCCM) へのリブレースが決まっていた。PerfectWatch はこの SCCM との連携という面でも一日の長があり、インベントリ収集を SCCM で行い、それを基に PerfectWatch で IT 資産管理を行うという機能分担を図ることで、同社の資産管理の要件をほぼ完全に満たせると判断したのだ。

こうしてキャノンマーケティングジャパンは、2012 年に PerfectWatch と SCCM を IT 資産管理プラットフォームとして全面採用することに決めた。

PerfectWatch と SCCM の連携で管理精度の向上とソフトウェアライセンスの最適化を実現

PerfectWatch の導入作業は、2012 年夏から本格的にスタートした。最も時間を割いたのが、資産管理データベースの設計だ。従来はばらばらに管理していた各種ハードウェアとソフトウェアを1つのデータベースで管理するために、どのような項目を備えるべきかについて、キャノンマーケティングジャパンの IT スタッフと Win テクノロジのエンジニアが密に連携して、少しずつ形にしていっていったという。「検討範囲はかなり広範に及びましたが、Win テクノロジのエンジニアさんが要件をうまく引き出してくれたおかげで、設計作業はスムーズに進みました」（八木下氏）

約 1 年間の設計・開発・テスト作業を経て、2013 年 9 月に PerfectWatch と SCCM による新たな IT 資産管理プラットフォームが稼働を始めた。オンラインでのインベントリ収集は SCCM で

を行い、その結果を自動的に PerfectWatch へ反映させる。また、オフラインデバイスのインベントリは、PerfectWatch が提供する機能を通じて直接登録する仕組みだ。

これによって、キヤノンマーケティングジャパン社内のさまざまなハードウェア/ソフトウェアのアセット情報は PerfectWatch のデータベース内に集約されるようになった。PerfectWatch が備えるソフトウェア辞書を使って、ソフトウェアインベントリ情報が自動的に名寄せされ、ソフトウェアの利用状況も正確に可視化されて、ライセンス情報との紐付けもされるようになった。

従来、棚卸し等のイベントの時点で把握していたソフトウェアライセンスの運用状況は、いまでは日々単位で可視化されており、ソフトウェアの購入や利用形態をこれまで以上に最適化することを実現しているという。PerfectWatch の導入後、IT 資産の棚卸し作業も半年に1度と、頻度を増やすことができるようになった。

「約2万台のPCに導入されている約600万本のソフトウェア棚卸しを頻繁に行うことは容易ではありませんでした。またユーザーは自身の管理状態をリアルタイムに確認することができませんでした。いまでは PerfectWatch のライセンス割当の自動化の機能やポータル画面を活用することで資産管理の精度を向上させています」(八木下氏)

PerfectWatch は、収集した実際のインベントリ情報と資産管理データベースに登録されている内容との間に差異が生じた場合、ユーザーにアラートを通知して、内容の確認や更新を促す機能も備える。この機能をしばらく運用するうちに、「ユーザーがアラートを受け取って、その内容を IT 部門に問い合わせるなどしているうちに、ユーザー自身の資産管理やライセンス管理に対する意識が向上してきているのを実感している」(八木下氏)と、当初予想もしていなかった「従業員の IT 資産管理やライセンス管理に対する意識向上」という効果が表れているという。

また、ソフトウェアライセンスの正確な利用状況が可視化されたことにより、ライセンス違反を確実に防止できるようになったことはもちろん、無駄なライセンスを購入する必要もなくなり、コスト削減にも貢献している。

現場の要望を製品仕様にも反映し 管理効率を向上

キヤノンマーケティングジャパンでは PerfectWatch の機能を通じて、ユーザー自身の手で管理対象デバイスの情報を参照したり更新したりする運用が定着しつつある。また、ユーザーから機能改善の要望も寄せられ、実際にそのうちの幾つかは PerfectWatch の仕様にも反映されているという。

八木下氏は、今後も PerfectWatch を使った同社の IT 資産管理の取り組みを高度化・効率化していきたいとしている。既にグループ全社を対象とした IT 資産管理を数人のみで運用する体制を作り上げている。これをさらに省力化させつつ、棚卸しのような定期イベントでのソフトウェア管理から、日常業務の中でのリアルタイムの管理に引きあげていきたいという。

「現在はスマートフォンの管理に別の MDM ツールを利用していますが、これが PerfectWatch と連携するようになると、管理効率が高まるでしょう。今後、スマートデバイスの活用はさらに進むことが予想されるため、ぜひ期待したいところです。また、ネットワークに接続されている機器などの中には、ネットワーク環境の制約から SCCM でインベントリを収集できないものがあるので、PerfectWatch の機能でインベントリ収集ができるようになると便利です。弊社にとって PerfectWatch はもはや欠かせないツールですから、今後はこうした機能強化によってさらに使い勝手が高まることを期待しています」(八木下氏)

お客様にて実現できたポイント

- ✓ 正確なライセンス管理を実施し、経営リスクを低減
- ✓ 2万台規模のIT資産管理を数名の管理体制で対応、IT資産状況のタイムリーな把握が可能に
- ✓ IT資産情報を活用し、調達コストを最適化・削減

●お問い合わせ

Win テクノロジ株式会社

東京都西新宿 6-24-1 西新宿三井ビル
Tel : 03-3343-2512 Fax : 03-3343-2644
<http://www.scskwin.com>



※ PerfectWatch は SCSK 株式会社の登録商標です。
Active Directory、SharePoint、SQL Server またはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他、掲載されている製品/サービス名称、社名、ロゴマークなどは該当する各社の商標または登録商標です。
本文中では、TM、® は省略しています。